

7 長崎大学生生活協同組合との連携

環境報告書 Vol.4

2008年5月30日

長崎大学生生活協同組合との連携



《ISO14001認証取得》

長崎大学生生活協同組合は、2004年1月28日にISO14001認証取得をいたしました。当時、大学生協単独での取得は全国初であり、同時に取得した鹿児島大学生協、佐賀大学生協とともに全国の大学生協の認証取得に向けた活動の草分けとなりました。長崎大学生協は、組合員とともに環境保全活動を推進し、環境配慮に貢献できる学生を育成することで「長崎大学環境配慮の方針」の実現に貢献し、社会的に価値ある存在になりたいと願っています。

《環境方針》

長崎大学生協は、組合員の意志によって作られました。長崎大学生協の役割は、協同互助の精神に基づき民主的運営により組合員の生活の文化的経済的改善向上を図ることを目的としています。

環境保全活動が商品、サービス、及びすべての活動の基礎的な取り組みであると認識し、可能な範囲において、目的・目標を設定し、見直す枠組みを与え、環境保全活動を以下のとおり、継続的改善と汚染の予防を推進します。

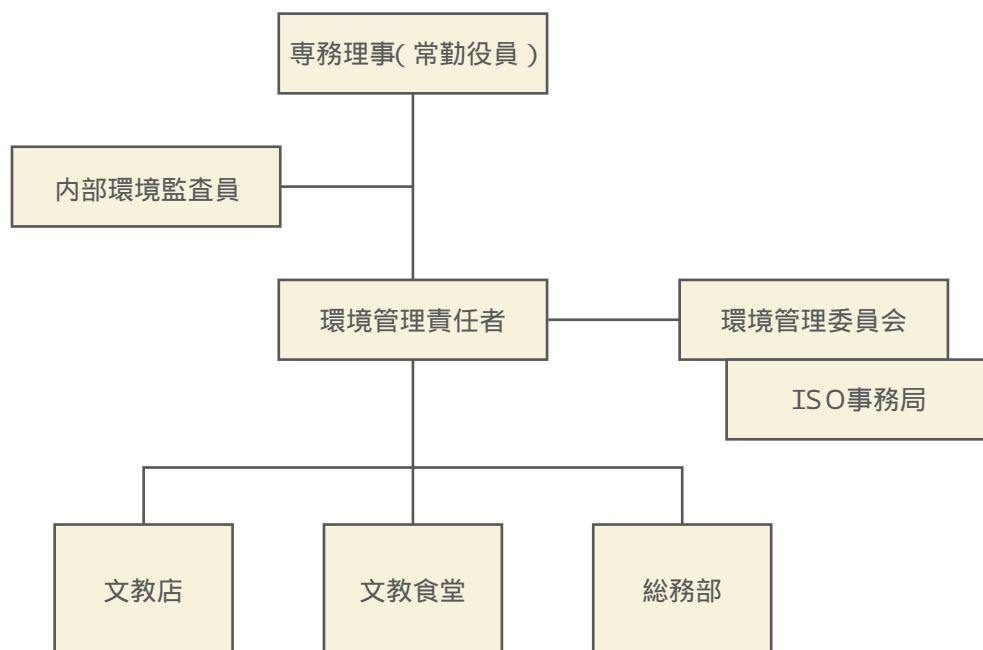
- (1)環境側面に関係する法規制、条例、その他受け入れを決めた要求事項を遵守します。
- (2)長崎大学生協文教キャンパス施設において、電気、ガス、水の使用料削減、廃棄物の削減、リサイクル活動をすすめます。
- (3)環境保全活動を推進するため、環境マネジメント推進組織を整備し、全職員が活動できるようにします。
- (4)内部環境監査を実施し、自主管理による環境マネジメントシステムの維持向上に努めます。
- (5)環境教育、内外の公表を行い、全職員の環境方針の理解と環境に関する意識の向上を図ります。

= = 環境方針はパンフレットなどを作成し、長崎大学生協内外に広く公表します。 = =

2008年2月13日

長崎大学生生活協同組合 専務理事 山下 毅

《環境管理体制組織図》



《2007年度活動記録》

- ・環境管理委員会 (6 / 12、 7 / 10、 8 / 6、 9 / 18、 10 / 15、 11 / 13、 11 / 30、 12 / 6、 12 / 26、 1 / 16、 2 / 13)
- ・内部環境監査 (11 / 20)
- ・一般教育 (11 / 6、 11 / 26、 12 / 3)
- ・管理者研修 (12 / 6)
- ・初期研修 (随時)
- ・定期サーベイランス (1 / 8)

《環境目標》

(環境マネジメントプログラムより)

- | | |
|---|---|
| <p>1. 電力の使用量削減</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)照明器具の適切な管理による節電 (2)エアコンの温度管理による節電 (3)コピー機やパソコンの適切な管理による節電 (4)手順書に基づいて運用管理 <p>2. ガスの使用量削減</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)エアコンの適切な管理による削減 (2)エアコンの温度管理による削減 | <p>3. 水の使用料削減</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)手順書に基づいた運用管理 <p>4. 生ゴミ廃棄の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)手順書に基づいた運用管理 <p>5. 弁当容器のリサイクル率アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)リサイクルの組合員への広報 (2)内部作業として売れ残り弁当容器のリサイクル (3)より効果的な回収方法の検討と実施 |
|---|---|

《2007年度の取り組み状況》

1. 電力の使用量削減

文教キャンパスの生協施設の電気使用量を削減し、環境負荷の軽減と同時に施設のコスト抑制に貢献することを目的に、取り組んでいます。

照明、コピー機、パソコン、エアコンの適切な管理により、2007年度は2005年度の2%の削減を目標にしていました。

昨年度の合計数値からは減少させていますが目標数値に達していません。環境管理委員会で確認しているプログラムでは是正処置までは行わない許容範囲内ではありますが、今後の取り組み方について議論が必要な状況です。

2. ガスの使用量削減

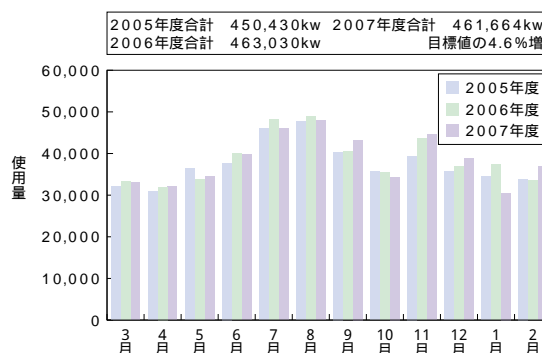
文教キャンパスの生協施設のガス使用量を削減し、環境負荷の軽減と同時に施設のコスト抑制に貢献することを目的に、取り組んでいます。測定数値は文教店のエアコンの都市ガス使用です。

エアコンの適切な管理により、2007年度は2005年度の2%削減を目標にしていました。

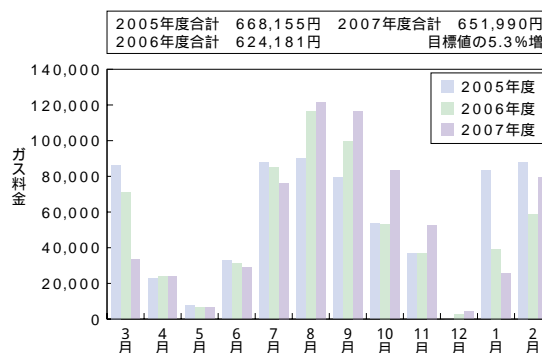
温度管理をしながらエアコンの調整をしていますが、暑い日が多く、稼働時間が長かったことも増加の要因です。請求料金でしか、数値が取れない状況があります。ガス料金の高騰も考慮できていません。

数値の把握と目標値の設定の再検討が必要な状況です。

電気使用量 (Kw)



ガス料金 (円)



3. 水の使用量削減

文教食堂で使用する水の使用量の削減に2006年度から新たに取り組み始めました。2007年度は2005年度の3%削減を目指すことで取り組みました。

「蛇口を開けたままにしない」「食器洗浄機の運用管理」など、厨房内での細かな取り組みが数字に反映してきています。

4. 生ゴミ廃棄の削減

文教食堂は生ごみ廃棄量が年間100トン未満であり、食品リサイクル法の適用は受けませんが、自主的に生ゴミ削減の取り組みを開始しました。

目標の設定を単純に06年度の10%削減として取り組み始めましたが、ミールカードでの客数増で食数が大幅に増え、最初から目標を大きくオーバーしてしまう事態となりました。7月に目標数値のあり方を変えましたが、再度、目標設定の検討が必要です。

食数を考慮した目標設定が必要ではないかと環境管理委員会での議論が深まっています。

5. 弁当容器のリサイクル

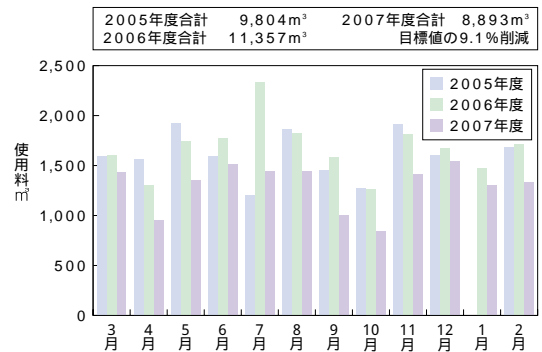
生協オリジナル弁当の容器を回収し、別用途での再利用を図ることにより、ゴミの量を軽減することを目的に取り組んでいます。

2004年度は回収方法・再利用方法を調査・検討する段階を目標としてスタートし、2005年1月より、井類の弁当容器の回収を開始しました。05年3月～06年2月の回収状況は累計で回収率28%でした。

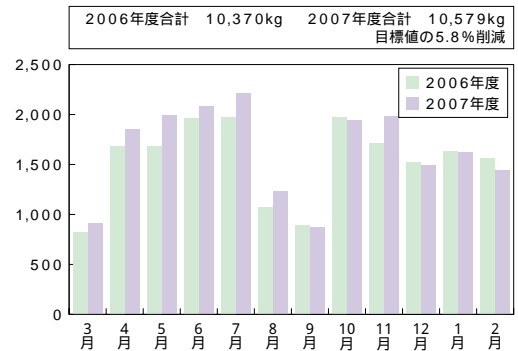
回収率は50%を越えるところまで来ました。組合員の認知が上がってきています。また、環境系サークルが店内にリサイクル推進のポスターを掲示するなど、組合員参加型の活動が始まっています。

今後は、回収方法、回収場所の新たな検討が必要となっています。

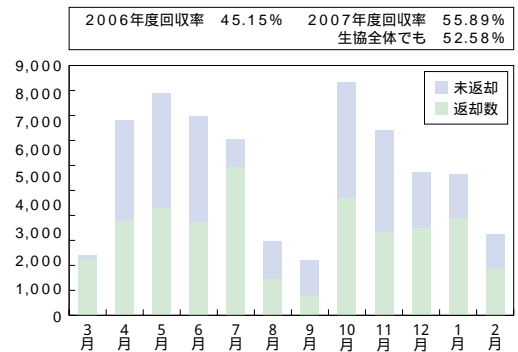
文教食堂水の使用料 (m³)



生ゴミ廃棄量 (kg)



デポジット弁当容器回収 (個)



6. その他

環境プログラムとして設定していませんが、ダンボール回収・再利用（全体）

コピー用紙利用削減（文教食堂）も引き続きデータを取りながら活動しています。

その他、カップ自販機紙カップのデポジットによる回収やペットボトル回収の取り組みをおこなっています。

段ボール回収量（kg）

